

ヒートポンプ利用による環境負荷に配慮したバラ生産

小畑 和敏 (おばた かずとし) 有限会社メルヘンローズ 代表取締役

要約 燃油高騰対策としてヒートポンプの導入にいち早く取り組み、エネルギーコストの低減を図ると共に、その特性を利用してバラの品質の向上や生産する上での環境負荷の低減への取り組みを紹介する。

1. はじめに

メルヘンローズは平成2年に日本一のバラ団地を目指して8戸の農家の任意の生産組合として発足した。

大分県玖珠町という九州の内陸部に位置し、標高約500m、九州の中では準高冷地になり、夏でも比較的涼しいのが特徴である。

平成7年に経営の効率化を図るため法人化。その後面積拡大を図り、国内では最大級の栽培面積約3haの経営となる。農家の集まりとしては少ないヒエラルキー型組織を目指し様々な問題解決をおこない、新しい挑戦を続けてきた。



「メルヘンローズ」のロゴ (商標登録済み)



玖珠町を背景に (有)メルヘンローズ全景

2. 新しい技術で高品質なバラ生産を

周年でバラを栽培するためには安定した栽培環境を整える必要があるが、温湿度などのコントロールがし易く、台風などの災害にも強い重量鉄骨の温室を圃場の大きさに合わせて建設。2期に分けて大小16棟を建設し、総温室面積約3haとなった。被覆材としてはコストを考えて高価なガラスでは無く硬質プラスチックの被覆とした。これは後の老朽化に伴う張り替えてフッ素樹脂や2相被覆も導入することになる。

温室天頂部の天窗と肩にある側窓による換気と、二重に設置した保温と遮光両目的のための内張カーテン、更に加温のための重油燃焼型の温風暖房機と後述のヒートポンプエアコンで温湿度を制御し年間を通じ



アーチング栽培の様子